

—明治・大正の女子宮廷服—

日本の皇室に洋装の導入が始まった明治より大正にかけて、女子皇族方に着用された大礼服を中心に本学園の名品を展示いたします。

大礼服(Manteau de cour)は、主に新年の拝賀式に着用される女子の最高礼服である。形状は襟あきが広く、袖なしか短い袖のドレスにトレーンを付ける。身分が高いほどトレーンは長い。

今回展示の大礼服は宮中夜会や晚餐会にてトレーンを付けずに中礼服として着用されることもあった。



李方子妃(李王垠殿下妃)
着用大礼服(トレーンなし)



李方子妃(李王垠殿下妃)
着用大礼服(トレーンあり)



皇族妃(梨本宮妃)
御所用ビジティングドレス
(明治42年:1909年パリで製作)



皇族妃(梨本宮妃)
御所用大礼服